

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200783
法人名	医療法人平成会
事業所名	ほっとやまうち
所在地	今治市常盤町8丁目4-31
自己評価作成日	平成22年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 2 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者1人ひとりのなじみの習慣や好きなことを暮らしの中に取り入れ、「ほっと安らぎ笑顔で自分らしく」生活できるよう支援している。 ・地域の高校生や短大生がボランティアや実習に来て、交流する機会が増えてきていること。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは市街地の交通量の多いところにある。開設から6年を経過し、利用者も職員も落ち着いた生活を送っている。本人及び家族の思いや要望をできるだけ聞き取るよう努め、優しく温かな雰囲気の中でより良いケアをしていこうという前向きな姿勢がある。運営推進会議や地域行事をはじめ、ホーム隣のコンビニエンスストアや学生ボランティアとの関わり、地域包括支援センターを通じての活動等、さまざまな取り組みで地域との繋がりを深めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

ほっとやまうち

(ユニット名)

2F

記入者(管理者)

氏 名

野村 京子

評価完了日

平成 22 年 1 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) その人らしく暮らし続けることを支援する内容である。毎月1回のミーティングでは、管理者と職員が利用者1人ひとりの最近の様子や好まれることの情報を共有しており、地域のボランティアの方が来設する時は利用者の好まれることを活かして交流するようお願いする場合もある。 (外部評価) 開設以降も、職員の意見により理念の見直しを行っている。ユニット毎に、目標・職員各自が大切にしている姿勢等を掲げ、目にふれるよう掲示して共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日時は特に決めていないが、民生委員の方が来設して利用者と談話される時がある。地方祭では毎年、おみこしに来ていただき、交流する習慣ができているが、こちらから出向いての交流機会が少ない。 (外部評価) 街中の交通量の多い場所にあるホームであるが、隣のコンビニエンスストアに出かけたり、散歩や町内の神社掃除に参加した際等には地域の方と交流を図っている。また、町内行事等にも参加・協力を心がけている。民生委員の訪問や、定期的な高校生のボランティアも続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 支援に関する知識や実践経験を積み上げてきているが、利用者への日常支援を第一にしており、地域貢献までは至っていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回、報告や相談をして会議メンバーから率直な意見をもらい、参考にしてサービス向上に活かすよう努めている。	
			(外部評価) 参加者はバラエティーに富み、活発な意見・情報交換や検討が行われている。家族からの意見も出され、サービスの質の向上につながっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者と日頃から連絡を密に取っていない。運営推進会議のメンバーになってもらっている。運営推進会議後、報告書を提出している。	
			(外部評価) 市担当課には頻繁に出向いて情報交換し、時には提案等も行っている。また、運営推進会議の議事録を提出している。地域包括支援センターへはグループホームとの相互研修の実施について働きかけているが、まだ実現には至っていない。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 毎月、管理者が認知症介護をしていることを意識するように喚起している。 身体拘束をしないケアについてマニュアルがあり、スタッフ全員が内容を確認している。	
			(外部評価) 2～4階の各ユニット玄関と、建物1階の玄関には事務所があり、出入りが確認できるようになっているため施錠はしていない。職員は身体拘束にかかるマニュアルを理解し、機会があるごとに共有し合い、適切に支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止に関するマニュアルはスタッフ全員確認している。こういった行為が虐待に当たるか話題に上がった時は説明し、共有して防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 財産のことで悩まれている方に、成年後見制度について本人、家族同席で管理者が話す機会があった。個々の必要性を話し合い、活用できるように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) きちんと説明し、納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 居室やトイレ・浴室等で利用者と2人つきりになった時に、利用者が要望や思いを話されやすいので、特に気をつけて傾聴したり、困ったことはないか声かけして意見の反映に努めている。家族面会時や家族会の時に要望を聴いている。エレベーター内に外部への連絡先のポスターも明示している。 (外部評価) 職員は、利用者や家族の意見や要望を聞き取る姿勢で対応しており、直接の会話や運営推進会議等から把握して運営に反映させている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフから意見等の申し出があった時は、内容によっては管理者・各ユニットのリーダー会で話し合い、反映される時がある。 (外部評価) 定期的なミーティングで職員からの意見等があった場合は、管理者とユニットのリーダー会等で意見や提案について検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 運営者は管理者からの報告を聞き、対応に配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修は自分の為だけで職場にメリットがないと捉えられる場合があり、誰もが研修にすすんで参加しやすい状況ではない。 研修案内は各ユニットに配布されており、参加希望者は管理者に申し出るようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 年1～2回、相互訪問を実施しているが参加人数も少なく、各ユニット間で情報の共有が十分にできていないので、サービスの質の向上に全体が活かしきれていない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 受容的な姿勢で利用者の話を良く傾聴し、困っていること等が解決するように支援していき、信頼関係を築くよう努めている。 特に入浴時や居室で利用者と2人つきりになれる時に、思いを話しやすいように接するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用申し込み時に家族支援をお願いし、協働して支援することの大切さを話している。 受容的な姿勢で家族の思いを傾聴し、信頼関係を築くよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期の対応に細心の注意を払っている。 他のサービスでは、病院でのリハビリや、併設のデイサービスを利用される方もいる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の出来ることを探して、一緒に協力して生活をするよう支援している。 調理方法を教えていただいたり、一緒に家事をして支え合うよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族にとって負担と感じないようにするバランスが難しいが、本人が安心・納得されるように家族に協力をお願いする時がある。 家族会等で一緒に食事を楽しむ機会を持っている。 家族がお墓参りや買い物等、一緒に外出されることもある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人等の面会時は居室に椅子やお茶を用意し、ゆったりと共に過ごせるように支援している。 本人希望時に電話や手紙のやり取りを支援するよう努めている。 (外部評価) 家族の訪問時や家族会等を通じてこれまでの馴染みの生活について情報を得たり、利用者と日々接する中で情報を把握し、個々の生活を豊かにするよう努力して支援している。また、家族がホーム行事に参加したり、旅行・買い物・美容院・医療機関への受診等に家族が同行するなど、協力を得ながら家族との関係が途切れないよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) テーブル拭きでは布巾を手渡ししながら皆で協力していただく等している。 シーツたたみは利用者2人が協力してすることが多い。 利用者の意向を確認しながら、家事等、協力し合えることを探している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、まれに訪問してくださる方がいる。いつでも立ち寄っていただけるよう声かけして、付き合いを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式で得た情報も参考にしながら、1人ひとりの言動から意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 日々の生活の中で、利用者一人ひとりの言動等から思いや希望を把握するように努め、さらに家族から得た情報等も加えながら職員間で共有し、より豊かな生活が送れるよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族会の時や家族面会時にこれまでの暮らしについて聞き、把握して活用している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の出来ることを発見した時は、スタッフ間で共有し、現状の把握に努めている。 発見したことを気づきノートに記入したり、申し送り時にミーティングを兼ねて話し合い共有に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族の意向を反映した介護計画となるよう、日頃から利用者に困っていることはないか聞くように努めている。 (外部評価) センター方式でまとめた利用者の情報や家族の意見・要望等も参考にしながら介護計画を作成し、担当者が毎月モニタリングをしている。計画の見直しは3～6か月毎に行っている。介護計画はやさしく分かり易い言葉で表現し、実践につなげやすいよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者のことで気づきを個別記録している。生活記録の中に介護計画の欄を作っており、実施状況や変わったこと・本人の発言等を簡潔な記録で共有し、実践に活かすよう努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族面会時に要望等はないか時々伺い、応じるよう努めている。 リハビリが必要で本人も希望される場合は、できるように病院で支援を受けている。 併設のデイサービスを利用し、楽しみにされている方もいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議のメンバーに消防、高校教諭、大学教諭、商店主等で構成され、それぞれより協力を得て支援している。 近所の農業を学ぶ高校生と共に、ほっとの菜園の管理をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の同意を得て、かかりつけ医を受診してい る。(母体が内科系病院である。) (外部評価) 本人及び家族の希望する医療機関を受診しているが、 母体法人の医療機関をかかりつけ医としている利用者 が多い。医療機関との連携は主に管理者や看護師が担 い、良好な協力関係にある。また、専門医の受診が必 要な場合は、家族の協力を得ながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎月20日程度、日中は看護師1人出勤しており、日 常の健康や体調不良の方について相談し、医師との連 携を図っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時はスタッフが毎日、1人ずつでもお見舞い に行き安心して過ごせるよう声かけしている。病院関 係者に経過などもその時に聞いたり、利用者の生活習 慣などを伝え、情報交換している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族や医療関係者と連携を図り、看取りを1度行っ た。 重度化や終末期について、管理者と家族が話をする時 がある。家族の協力がないと看取りが出来ないこと は、スタッフ全員共有している。 (外部評価) 利用開始時に、ホームとしてできること・できないこ とを説明している。また、状態の変化に応じて話し合 いを継続し、関係者と方針を共有しながら支援に取り 組んでいる。看取りの経験は現在までに1例ある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) AEDを使った応急処置や初期対応を学ぶ機会と、研修で学んだ事を講習する機会があった。 新しい職員は講習など受けておらず、全職員が実践力を身に付けることは出来ていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、避難訓練や点検を実施している。 近所のコンビニに支援してもらえようをお願いしている。 全職員が避難方法を身に付ける実践的な訓練はできていない。 (外部評価) 定期的な避難訓練や消防点検を実施し、訓練の評価も具体的に行っている。スプリンクラーは今年度中に設置が完了する予定である。施設長・医療機関・事務長に自動的に連絡が行く警報設備があり、備蓄は3日分を確保している。近隣の協力体制は確保しており、特に隣のコンビニエンスストアは災害時に利用できるような体制を整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレ誘導は、他者の前では小声で誘ったりしている。 失敗や違ったことをされた時は、さり気なく片付けている。「こちらの言葉が足らずですみません」や「いつも気にかけてくれてありがとうございます」と、言葉かけをして対応している。 (外部評価) 職員は利用者ごとの情報を共有し、一人ひとりを尊重した言葉かけや態度に注意しながらやさしく接している。トイレ誘導等は小声でさりげなく行うなど、十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の視線の高さで、1人ひとりに合わせたコミュニケーションをとるよう心がけている。 靴下選び等、小さなことでも利用者を選択していただくよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人がしたいと思っていることを大切にして、個別に応じた支援をするよう努めている。意向に沿って集団レクの時間も設け、団らんで過ごす等メリハリもつけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族が行きつけのパーマに同行される方がいる。出来ない方は、美容師の訪問や家族に整髪されている。夏祭り等、行事の時は意向を確認して化粧の支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理は少しでも利用者の協力を得てするように努めている。 食器拭きや洗米等、出来ることを意向に沿って役割發揮していただいている。	
			(外部評価) ユニットごとに、利用者と一緒にメニューを決めている。調理や後片付けはできる範囲で参加し、役割を担ってもらっている。車いすを利用している方も、食事時はイスに座って食事できるよう支援している。ラジオやBGMを流しながら、職員と利用者が和やかに食事と会話を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量や形態は、1人ひとりに応じて支援している。 自力で水分補給や食事摂取しやすいよう、食器や味付けなども工夫している。 定期的に栄養士に献立を見てもらい、アドバイスを参考に栄養バランスを保つよう食事作りをしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声掛けをし出来ない部分を支援している。 拒否された時は時間をおいて声掛けしたり、うがい・お茶をすすめている。 スタッフが隣でモデリングし、一緒にされるようさりげなく誘導する時もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 24時間排泄チェック表をつけて、パターンを把握し、本人のサインを見逃さないように努めて、トイレ誘導をしている。	
			(外部評価) チェック表で個々のパターンを把握した上で、排泄の自立にむけた支援に努めている。ホームでの適切な排泄支援により、排泄の自立が可能になった利用者もいる。トイレでの姿勢が保ちにくい利用者には、周りにイスを置くなどの工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便状況に応じて、ハブ茶や乳製品の提供、運動への働きかけをして予防に取り組んでいる。それでも排便が見られない時はかかりつけ医師に相談し、緩下剤などの調節をしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 決めてはいないが、1～2日おきに入浴支援することが多く、タイミングを合わせたり、好みのシャンプーを使っていたりしている。	
			(外部評価) 毎日沸かしており、利用者の要望や体調等を考慮しながら個別に対応している。入浴できないときはフットバスを利用することもある。入浴が楽しみになるよう、タイミングを合わせたり好みのシャンプー等を使うなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転の原因把握、対応に努めたり、睡眠を妨げないようにパット交換や寝返りの出来ない方は、体位変換をしている。 夜間希望に応じて甘い物を適量、食べていただいたりしている。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師を交えてスタッフ間で薬や症状の変化の情報共有・確認・把握に努めている。 1人ひとりが使用している薬を把握して副作用にも気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の出来る事を探して、役割を発揮するよう支援している。 好きなカラオケや外気浴も出来る時に支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望に沿って出かけられないことが多いが、年間行事で休日にドライブをほぼ毎月予定しており、その時の希望者に支援している。ボランティアの方と一緒に外出する時もある。 家族が同行して外出される方もいる。	
			(外部評価) 家族の協力を得ながら、散歩・お参り・花見等に出かけている。近所の散歩は日常的に行い、ドライブは毎月予定している。家族と一緒に外出したり、ボランティアと一緒に外出することもある。また、受診も外出支援と考え、希望等により買い物や寄り道をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を所持できる方にはしていただき、小遣い帳は個別に記録している。 希望時に近所の店へ買物に同行する時もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人希望時に100番電話や手紙の支援をしている。 年賀状は本人に少しでも何か書いていただき、ご家族とやり取りをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) カーテンで遮光の調節をしたり、外の工事等の騒音時は窓を閉めて空調調節している。 季節の花を飾ったり、音楽をかけて、居心地良く過ごせるよう努めている。 (外部評価) 各ユニットの玄関にはベンチや季節の花がある。廊下・洗面所・トイレ・浴室には安全に配慮して適所に手すりを設置している。居間には畳のコーナーがあり、ゆったりとした空間となっている。それぞれの落ち着ける居場所を確保できるよう、ソファやいすも配置している。職員が共用空間の見守りをしやすい設えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアーの所々にベンチや椅子を設置しており、休憩したり利用者数人でくつろげるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 寝具は枕やシーツ等、使い慣れたものを使用されている。好みの写真や大切なものも飾られている。利用者によって飾りはタンスへ片付けたり破られる為、何も飾りが無い方もいるが、寝具はご自分のものを使用している。入室し、寝具を見ると「私の部屋」と、休まれることが多い。 (外部評価) 家族の協力を得ながら、寝具・衣類箱・タンス・テレビ・ラジオ・仏壇や位牌・写真・書や絵・花鉢等、愛着や馴染みのあるものを持参している。持参した仏壇や寝具により、自分の居場所を確認できている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室出入口に入居者の名前を大きめの字で示したり、トイレもわかりやすいように書いて示している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200783
法人名	医療法人平成会
事業所名	ほっとやまうち
所在地	今治市常盤町8丁目4-31
自己評価作成日	平成 22 年 1 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 2 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者1人ひとりのなじみの習慣や好きなことを暮らしの中に取り入れ、「ほっと安らぎ笑顔で自分らしく」生活できるよう支援している。 ・地域の高校生や短大生がボランティアや実習に来て、交流する機会が増えてきていること。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは市街地の交通量の多いところにある。開設から6年を経過し、利用者も職員も落ち着いた生活を送っている。本人及び家族の思いや要望をできるだけ聞き取るよう努め、優しく温かな雰囲気の中でより良いケアをしていこうという前向きな姿勢がある。運営推進会議や地域行事をはじめ、ホーム隣のコンビニエンスストアや学生ボランティアとの関わり、地域包括支援センターを通じての活動等、さまざまな取り組みで地域との繋がりを深めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

ほっとやまうち

(ユニット名)

3F

記入者(管理者)

氏 名

宇高 加代子

評価完了日

平成 22 年 1 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を理解し、1人ひとりが自分らしく生活していただくように統一したケアをするよう心がけている。 (外部評価) 開設以降も、職員の意見により理念の見直しを行っている。ユニット毎に、目標・職員各自が大切にしている姿勢等を掲げ、目にふれるよう掲示して共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事等に参加、ホームでの行事に地域の方が参加していますが、もっと交流の場が増えるとよい。 (外部評価) 街中の交通量の多い場所にあるホームであるが、隣のコンビニエンスストアに出かけたり、散歩や町内の神社掃除に参加した際等には地域の方と交流を図っている。また、町内行事等にも参加・協力を心がけている。民生委員の訪問や、定期的な高校生のボランティアも続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方に参加していただき、認知症の勉強会、介護の仕方、相談などをする場をもっと設ける。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催し、色々な意見・評価を参考にしている。	
			(外部評価) 参加者はバラエティーに富み、活発な意見・情報交換や検討が行われている。家族からの意見も出され、サービスの質の向上につながっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に出席していただいているので理解してもらっている。 運営推進会議の後、その都度報告書を提出している。	
			(外部評価) 市担当課には頻繁に出向いて情報交換し、時には提案等も行っている。また、運営推進会議の議事録を提出している。地域包括支援センターへはグループホームとの相互研修の実施について働きかけているが、まだ実現には至っていない。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全員が理解して取り組んでいる。 玄関の鍵はいつでも面会できるよう開けている。	
			(外部評価) 2～4階の各ユニット玄関と、建物1階の玄関には事務所があり、出入りが確認できるようになっているため施錠はしていない。職員は身体拘束にかかるマニュアルを理解し、機会があるごとに共有し合い、適切に支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修等に参加、勉強をし、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し学びましたが難しく、また機会があれば研修に参加し理解できるようにしたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 文書で説明をして、同意してサイン・印鑑をもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時、家族会の時に聞いたり、運営推進会議に家族の出席をお願いし、意見を言ってもらっている。 苦情箱の設置をしている。 (外部評価) 職員は、利用者や家族の意見や要望を聞き取る姿勢で対応しており、直接の会話や運営推進会議等から把握して運営に反映させている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のリーダー会、ミーティングで聞いたり随時聞いている。 (外部評価) 定期的なミーティングで職員からの意見等があった場合は、管理者とユニットのリーダー会等で意見や提案について検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者と管理者は意思疎通が出来ており、勤務環境整備について協力的である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修は「行ってください」といつも言われ、同じ職員が参加する傾向にあるので、順番に参加し報告する。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会等を通じての交流を行っている。他のグループホームの行事等への参加も行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所する時、本人や家族にいろいろ聞いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 話しやすい雰囲気作りをして、信頼していただけるよ うに、何でも話してもらえようようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) リハビリの必要な利用者にはリハビリを、デイサービ スを利用したい方はデイサービスを利用している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 1人ひとりの残存機能を見出しゆったりとした時間 の中に笑顔がたくさん見られるように支援を心がけて いる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人、家族の意向を聴き、本人にとって一番良い生活 が提供できるよう支援を心がけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) いつでも面会が出来るようにしている。 家族の方に協力してもらっている。 (外部評価) 家族の訪問時や家族会等を通じてこれまでの馴染みの 生活について情報を得たり、利用者と日々接する中で 情報を把握し、個々の生活を豊かにするよう努力して 支援している。また、家族がホーム行事に参加した り、旅行・買い物・美容院・医療機関への受診等に家 族が同行するなど、協力を得ながら家族との関係が途 切れないよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い入居者さんには隣の席に座っていただき、皆が仲良く楽しく過ごせるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 病院に入院された時は、お見舞いに行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を参考にしながら本人の望んでいる生活を支援している。	
			(外部評価) 日々の生活の中で、利用者一人ひとりの言動等から思いや希望を把握するように努め、さらに家族から得た情報等も加えながら職員間で共有し、より豊かな生活が送れるよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 1人ひとりアセスメントシートを作っている。 (昔の生活や今の生活等)	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1人ひとり出来ること出来ない事を把握し、少しでも残存機能を生かし毎日楽しく笑顔が見られるように支援していくことを心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプラン作成時、本人・家族の意向を聞いて作成。担当者会議に家族が出席。 計画に沿ってケアが出来ているか、どんな事が出来ていないか毎月モニタリングしている。	
			(外部評価) センター方式でまとめた利用者の情報や家族の意見・要望等も参考にしながら介護計画を作成し、担当者が毎月モニタリングをしている。計画の見直しは3～6か月毎に行っている。介護計画はやさしく分かり易い言葉で表現し、実践につなげやすいよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の個別記録、申し送り、随時話し合っている。 定期的にプランの見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 随時話し合っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 本人の出来る事を把握し、もっと地域資源を利用出来れば良い。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体が病院で安心です。 受診のとき、家族も必要があれば同行している。結果 を報告している。 (外部評価) 本人及び家族の希望する医療機関を受診しているが、 母体法人の医療機関をかかりつけ医としている利用者が 多い。医療機関との連携は主に管理者や看護師が担 い、良好な協力関係にある。また、専門医の受診が必要 な場合は、家族の協力を得ながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) いつでも病院と連携を取り、指示を仰いでいる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院が母体で情報交換は出来ている。入院した時はお 見舞いをしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族と話し合い、どのようにして欲しいのか意 向を聴いておくことが大事である。 (外部評価) 利用開始時に、ホームとしてできること・できないこ とを説明している。また、状態の変化に応じて話し合 いを継続し、関係者と方針を共有しながら支援に取り 組んでいる。看取りの経験は現在までに1例ある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルは作成しているが、発生時冷静に対応できるかは、わからないのでいつでも対応出来るように実践力を身に付けておく。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に訓練を実施している。 (外部評価) 定期的な避難訓練や消防点検を実施し、訓練の評価も具体的に行っている。スプリンクラーは今年度中に設置が完了する予定である。施設長・医療機関・事務長に自動的に連絡が行く警報設備があり、備蓄は3日分を確保している。近隣の協力体制は確保しており、特に隣のコンビニエンスストアは災害時に利用できるような体制を整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) センター方式を利用し、その人の情報収集をして、その人に合った対応を心がけている。 (外部評価) 職員は利用者ごとの情報を共有し、一人ひとりを尊重した言葉かけや態度に注意しながらやさしく接している。トイレ誘導等は小声でさりげなく行うなど、十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来るだけ利用者さんの思いや希望を取り入れるようにはしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 時々、職員側の都合で優先するときはありますが、その時は説明して納得していただいている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で出来る人は、自分の好きな洋服を着ています。外出する時はお化粧をする人もいます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 「どんなものが好き？」と聴いたり、季節の食材を使って料理。野菜の下ごしらえ、盛り付け食器洗い等手伝ってもらっている。 (外部評価) ユニットごとに、利用者と一緒にメニューを決めている。調理や後片付けはできる範囲で参加し、役割を担ってもらっている。車いすを利用している方も、食事時はイスに座って食事できるよう支援している。ラジオやBGMを流しながら、職員と利用者が和やかに食事と会話を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分摂取量の少ない人は、摂取量を記入し、不足分を好きな飲み物で補っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声かけ、誘導、義歯の人は寝る前に外している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を記入してトイレ誘導。夜間に、はくパンツを使用している。昼間は布の下着を着用している。	
			(外部評価) チェック表で個々のパターンを把握した上で、排泄の自立にむけた支援に努めている。ホームでの適切な排泄支援により、排泄の自立が可能になった利用者もいる。トイレでの姿勢が保ちにくい利用者には、周りにイスを置くなどの工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 朝食後、ヨーグルトを提供。適度な運動をしてもらっている。 起床時、冷たい牛乳を提供。	
			(外部評価) 毎日沸かしており、利用者の要望や体調等を考慮しながら個別に対応している。入浴できないときはフットバスを利用することもある。入浴が楽しみになるよう、タイミングを合わせたり好みのシャンプー等を使うなど工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 1人ひとりの希望はなかなか難しいと思いますが、入る順番・曜日等は希望を聞いている。	
			(外部評価) 毎日沸かしており、利用者の要望や体調等を考慮しながら個別に対応している。入浴できないときはフットバスを利用することもある。入浴が楽しみになるよう、タイミングを合わせたり好みのシャンプー等を使うなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 1人ひとりの生活習慣を把握しており、支援している。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 名前を確認しながら手渡す。服用しているか確認。 便秘薬は排便の有無を見ながら調節している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 役割を持つことにより自信となり、生活して張りが出てきている。その人の持っている趣味などを取り入れるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候の良い時は戸外を散歩、花を見に行ったり、お参りなどに出かけている。 家族が外出の機会を作って、色々なところへ出かける利用者さんもある。 (外部評価) 家族の協力を得ながら、散歩・お参り・花見等に出かけている。近所の散歩は日常的に行い、ドライブは毎月予定している。家族と一緒に外出したり、ボランティアと一緒に外出することもある。また、受診も外出支援と考え、希望等により買い物や寄り道をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 財布を持って職員と一緒に買物をする。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 一部の入居者さんですが、家族の誕生日に手紙を出している。 今年も入居者さんに年賀はがきを書いていただいた。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の壁画、飾り物を置いている。 トイレ・浴室は分かりやすいように目印。	
			(外部評価) 各ユニットの玄関にはベンチや季節の花がある。廊下・洗面所・トイレ・浴室には安全に配慮して適所に手すりを設置している。居間には畳のコーナーがあり、ゆったりとした空間となっている。それぞれの落ち着ける居場所を確保できるよう、ソファやいすも配置している。職員が共用空間の見守りをしやすい設えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下・エレベータホールにソファを置いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) タンスの上には、仏壇や、置き物、写真を飾っている。	
			(外部評価) 家族の協力を得ながら、寝具・衣類箱・タンス・テレビ・ラジオ・仏壇や位牌・写真・書や絵・花鉢等、愛着や馴染みのあるものを持参している。持参した仏壇や寝具により、自分の居場所を確認できている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下・浴室・トイレ等に手すりの設置。 自分の居室は名札、わかりにくいところは目印。居室の入り口には、物を置かない。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200783
法人名	医療法人平成会
事業所名	ほっとやまうち
所在地	今治市常盤町8丁目4-31
自己評価作成日	平成 22 年 1 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 2 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者1人ひとりのなじみの習慣や好きなことを暮らしの中に取り入れ、「ほっと安らぎ笑顔で自分らしく」生活できるよう支援している。 ・地域の高校生や短大生がボランティアや実習に来て、交流する機会が増えてきていること。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは市街地の交通量の多いところにある。開設から6年を経過し、利用者も職員も落ち着いた生活を送っている。本人及び家族の思いや要望をできるだけ聞き取るよう努め、優しく温かな雰囲気の中でより良いケアをしていこうという前向きな姿勢がある。運営推進会議や地域行事をはじめ、ホーム隣のコンビニエンスストアや学生ボランティアとの関わり、地域包括支援センターを通じての活動等、さまざまな取り組みで地域との繋がりを深めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい		
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

ほっとやまうち

(ユニット名)

4F

記入者(管理者)

氏 名

玉井 理恵

評価完了日

平成 22 年 1 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ”ほっと安らぎ笑顔で自分らしく”の理念を意識し、日常的に取り組んでいる。	
			(外部評価) 開設以降も、職員の意見により理念の見直しを行っている。ユニット毎に、目標・職員各自が大切にしている姿勢等を掲げ、目にふれるよう掲示して共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の学校の協力で畑に花や野菜を作り、ベンチを置き立ち寄りやすい雰囲気作りをしている。	
			(外部評価) 街中の交通量の多い場所にあるホームであるが、隣のコンビニエンスストアに出かけたり、散歩や町内の神社掃除に参加した際等には地域の方と交流を図っている。また、町内行事等にも参加・協力を心がけている。民生委員の訪問や、定期的な高校生のボランティアも続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 外部研修やホーム内研修などをして、知識や支援の方法を勉強しているが、地域に向けての発信はしていない。(2年前に1度勉強会をしたことがある)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度開催し、活動状況等を報告し、評価を受け必要な要望や助言を聞き、実践に活かしている。	
			(外部評価) 参加者はバラエティーに富み、活発な意見・情報交換や検討が行われている。家族からの意見も出され、サービスの質の向上につながっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議のメンバーに、市の職員になってもらっている。又、運営推進会議報告書を提出している。	
			(外部評価) 市担当課には頻繁に出向いて情報交換し、時には提案等も行っている。また、運営推進会議の議事録を提出している。地域包括支援センターへはグループホームとの相互研修の実施について働きかけているが、まだ実現には至っていない。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 各ユニット玄関に、センサー式チャイムを取り付け、日中は鍵をかけず、自由に出入りできる。	
			(外部評価) 2～4階の各ユニット玄関と、建物1階の玄関には事務所があり、出入りが確認できるようになっているため施錠はしていない。職員は身体拘束にかかるマニュアルを理解し、機会があるごとに共有し合い、適切に支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会参加、行けない人の為資料が回覧されている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書の説明、他重要事項の説明を十分にし同意を得、手渡している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会、運営推進会議など機会があるごとに意見を求めている。 (外部評価) 職員は、利用者や家族の意見や要望を聞き取る姿勢で対応しており、直接の会話や運営推進会議等から把握して運営に反映させている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月ミーティングを行い意見交換している。	
			(外部評価) 定期的なミーティングで職員からの意見等があった場合は、管理者とユニットのリーダー会等で意見や提案について検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 手当て等で向上心を持って働いている。他の職種に比べ給与水準には不満がある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の機会を提供してもらっている。院内研修もある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会などで交流の機会を作っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) センター方式利用することで、なじみの関係作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 意見を聞いて納得できるように説明し理解を得てい る。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 状況にあったサービスを心がけている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 出来ることを一緒にすることで、学ぶことも多く喜ば れる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会、ほっとだよりで家族と連絡をとっている。病 院受診の際は家族に協力をお願いし、出来る限り一緒 に支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 訪問される友人、近所の方の来やすい雰囲気づくりを している。 (外部評価) 家族の訪問時や家族会等を通じてこれまでの馴染みの 生活について情報を得たり、利用者と日々接する中で 情報を把握し、個々の生活を豊かにするよう努力して 支援している。また、家族がホーム行事に参加した り、旅行・買い物・美容院・医療機関への受診等に家 族が同行するなど、協力を得ながら家族との関係が途 切れないよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 全員がリビングに集まる機会を作り、食事の下膳は出来る人が出来ない人のお手伝いを自然に行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されてもお見舞いや面会に行き、本人・家族の話を傾聴している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来る限り希望の把握はしている。	
			(外部評価) 日々の生活の中で、利用者一人ひとりの言動等から思いや希望を把握するように努め、さらに家族から得た情報等も加えながら職員間で共有し、より豊かな生活が送れるよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を導入し、情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 暮らしの中で出来ること、わかることを把握して。又、声かけし把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月モニタリングし、達成を4段階に評価し、本人・家族も考え介護計画を作成している。	
			(外部評価) センター方式でまとめた利用者の情報や家族の意見・要望等も参考にしながら介護計画を作成し、担当者が毎月モニタリングをしている。計画の見直しは3～6か月毎に行っている。介護計画はやさしく分かり易い言葉で表現し、実践につなげやすいよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々、気づいたことは介護計画に記入。又、日誌や連絡帳に記入し、職員間で把握しあっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの担当の職員が支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の学生、ボランティアの協力を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体が病院なのですぐに受診は可能。 (外部評価) 本人及び家族の希望する医療機関を受診しているが、 母体法人の医療機関をかかりつけ医としている利用者が 多い。医療機関との連携は主に管理者や看護師が担 い、良好な協力関係にある。また、専門医の受診が必要 な場合は、家族の協力を得ながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 母体の病院と連携している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 母体が病院のため、安心して治療できる。 関係は十分出来ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族の意を考慮し、病院との話し合いで方針を共有し ている。 (外部評価) 利用開始時に、ホームとしてできること・できないこ とを説明している。また、状態の変化に応じて話し合 いを継続し、関係者と方針を共有しながら支援に取り 組んでいる。看取りの経験は現在までに1例ある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) AED設置、講習会に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回避難訓練・消防点検をしている。車椅子や歩行困難な人の避難は不安である。 (外部評価) 定期的な避難訓練や消防点検を実施し、訓練の評価も具体的に行っている。スプリンクラーは今年度中に設置が完了する予定である。施設長・医療機関・事務長に自動的に連絡が行く警報設備があり、備蓄は3日分を確保している。近隣の協力体制は確保しており、特に隣のコンビニエンスストアは災害時に利用できるような体制を整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) さりげなく言葉かけし、傾聴している。 (外部評価) 職員は利用者ごとの情報を共有し、一人ひとりを尊重した言葉かけや態度に注意しながらやさしく接している。トイレ誘導等は小聲でさりげなく行うなど、十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 希望に沿えるよう努力している。自己決定・希望を表す人は少ない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望される際は、支援できるようにスタッフ同士の仕事をやりくりしている。他の人の介助でやりくりできない時は後日支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 施設に理容師に来てもらいカットしている。 希望者は毛染めのために美容室に付き添っている。外出時はお気に入りの服を選んでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ラジオ等BGMを流し雰囲気作りしている。 食事の片付け、食器拭きは入居者同士が助け合って手伝っている。 (外部評価) ユニットごとに、利用者と一緒にメニューを決めている。調理や後片付けはできる範囲で参加し、役割を担ってもらっている。車いすを利用している方も、食事時はイスに座って食事できるよう支援している。ラジオやBGMを流しながら、職員と利用者が和やかに食事と会話を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1人摂取量をカルテに記入しチェックしている。 好きなスポーツドリンクを飲んでもらったり、汁物を多く摂るよう声かけしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後声かけし、義歯洗浄介助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを把握し、トイレに誘導したり声かけをしている。	
			(外部評価) チェック表で個々のパターンを把握した上で、排泄の自立にむけた支援に努めている。ホームでの適切な排泄支援により、排泄の自立が可能になった利用者もいる。トイレでの姿勢が保ちにくい利用者には、周りにイスを置くなどの工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適度な運動や水分摂取の声かけを心がけている。 便秘の方には飲み物の砂糖の代わりにオリゴ糖を使用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 日中は出来るだけ希望に添えるよう努力している。	
			(外部評価) 毎日沸かしており、利用者の要望や体調等を考慮しながら個別に対応している。入浴できないときはフットバスを利用することもある。入浴が楽しみになるよう、タイミングを合わせたり好みのシャンプー等を使うなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜、十分な睡眠がとれるように、日中は適度な運動をしベットから離れた生活を支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 症状に応じ師長に指示をしてもらっている。 服用困難な人にはとろみを使っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物たたみ、食器拭きなどの手伝いは同じ人達だが、様子を見て参加することもある。好きなテレビ番組があるときは声かけをしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望に添えるようスタッフ同士でやりくりしている。家族の方にも協力を促しているが帰宅願望があると拒否される。 (外部評価) 家族の協力を得ながら、散歩・お参り・花見等に出かけている。近所の散歩は日常的に行い、ドライブは毎月予定している。家族と一緒に外出したり、ボランティアと一緒に外出することもある。また、受診も外出支援と考え、希望等により買い物や寄り道をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自ら買い物を希望される方はいない。外出の際、家族から預かっているお金で自動販売機でジュースを購入している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自ら電話する方はいない。年賀状作成の支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花、小物を飾っている。壁面の飾りも月ごとに変えている。	
			(外部評価) 各ユニットの玄関にはベンチや季節の花がある。廊下・洗面所・トイレ・浴室には安全に配慮して適所に手すりを設置している。居間には畳のコーナーがあり、ゆったりとした空間となっている。それぞれの落ち着ける居場所を確保できるよう、ソファやいすも配置している。職員が共用空間の見守りをしやすい設えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テーブルの席の場所を工夫している。足の状態で和室をあまり利用されていないのが残念である。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたものはあまり家族は持ってこられず、新しいものを買ってこられる方が多い。ベッドの高さは体にあったように工夫している。	
			(外部評価) 家族の協力を得ながら、寝具・衣類箱・タンス・テレビ・ラジオ・仏壇や位牌・写真・書や絵・花鉢等、愛着や馴染みのあるものを持参している。持参した仏壇や寝具により、自分の居場所を確認できている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各居室に花の名前・名前のプレートをかけている。トイレのドアの色、浴室には♿マークの暖簾をかけている。	